

ダットスキャン静注 併用注意薬についての文献情報

ダットスキャン静注は相互作用に併用注意を設定しています。併用注意薬を含む、ダットスキャン検査に影響する可能性のある薬剤(表 1~3)、影響が認められない薬剤(表 4)について、それぞれ文献情報を一覧に示しました。「イオフルパン診療ガイドライン」では、ドパミントランスポーター(DAT)への結合を変える可能性のある薬剤は、可能であれば少なくとも 5 半減期は使用しないこと、との記載があります。また選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)は、視覚的解釈を大きく妨げるものではないものの、線条体集積比を過大評価する可能性があり、可能であれば検査前の休薬が望ましいとされています。

本資料は休薬を推奨するものではありません。休薬が可能な患者さんの休薬期間を検討する際に参考としてご利用ください。
※本資料内の製品名は、先発品を中心に、一部のみの記載となっておりますのでご了承ください。

添付文書で併用注意となっている薬剤

ダットスキャン静注の添付文書では、海外で発売されているダットスキャンの添付文書で併用注意と記載された薬剤のうち、日本で発売されている薬剤を併用注意として記載しています。添付文書に記載がなくても、作用機序が同じ薬剤は影響がある可能性があります。

ー 添付文書 使用上の注意 3.相互作用より抜粋ー

併用注意(併用に注意すること)

※ガイドライン等の休薬推奨期間は表 1, 2 を参照ください

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
選択的セロトニン再取り込み阻害薬 ・ フルボキサミンマレイン酸塩 ・ パロキセチン塩酸塩水和物 ・ 塩酸セルトラリン	線条体と背景組織における本剤の集積比が上昇する可能性がある。画像を評価する際に留意すること。	本剤は背景組織に発現するセロトニントランスポーターにも結合するため、背景組織における本剤の集積が低下する可能性がある。
中枢神経刺激薬 ・ メチルフェニデート塩酸塩	線条体における本剤の集積低下の原因となる可能性がある。画像を評価する際に留意すること。	線条体における本剤の特異的結合を競合的に阻害する可能性がある。
三環系抗うつ剤 ・ アモキサピン		
食欲抑制剤 ・ マジンドール		
コカイン系製剤 ・ コカイン塩酸塩		
中枢興奮剤 ・ メタンフェタミン塩酸塩		

表 1 可能な範囲で休薬が推奨される薬剤

★添付文書上「併用注意」となっている薬剤

薬剤区分	薬剤名	製品名	血中半減期(t _{1/2})	集積への影響度	休薬推奨期間			その他の文献報告	予想される影響
					国内ガイドライン	海外ガイドライン	文献		
中枢神経刺激剤	★メチルフェニデート塩酸塩	リタリン錠	2.7 時間	20%以上	2 日	t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上	海外の添付文書に影響する薬剤として記載あり	線条体におけるダットスキャンの特異的結合を競合的に阻害することによる線条体集積低下
三環系抗うつ薬	★アモキサピン	アモキサンカプセル	8 時間	記載なし	記載なし	記載なし	—	—	
食欲抑制剤	★マジンドール	サノレックス錠	9 時間	20%以上	3 日	t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上、7 日	—	
コカイン系製剤	★コカイン塩酸塩	コカイン塩酸塩「タケダ」原末	不明		イオフルパンの DAT への結合	t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上、7 日	—	

					を著しく低下させる				
精神神経用剤	モダフィニル	モディオダール錠	8.46 時間	20%以上	3 日	t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上、7 日		
精神神経用剤	モダフィニル	モディオダール錠	14.78 時間	20%以上	3 日	t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上、7 日	7 日間の休薬で影響なし	
ノイロレプトアナ	ルゲシア用麻酔剤	フェンタニル	3.6 時間	記載なし		t _{1/2} の 5 倍以上	t _{1/2} の 5 倍以上	—	
麻酔用鎮痛剤		フェンタニル注射液			DAT へのイオフルパンの結合を低下させることがある			—	
注射用全身麻酔剤	ケタミン	ケラタール静注用	4 時間	記載なし		t _{1/2} の 5 倍以上		—	
吸入麻酔剤	イソフルラン	フォーレン吸入麻酔液	1 相-2.2~2.8 分 2 相-50.2~51.0 分	記載なし		t _{1/2} の 5 倍以上	1 日	—	

線条体における集積低下

表 2 影響する可能性はあるが日常診断での休薬は不要とされる薬剤(集積への影響は 15%以下)

国内ガイドラインもしくは海外ガイドラインに影響を与えうる薬と記載されているが、集積への影響度は 15%以下とされる薬剤を以下に示します。

薬剤区分 ガイドラインで示された効能(分類)	薬剤名	製品名	血中半減期 (t _{1/2})	ガイドライン休薬推奨期間		その他の文献報告	予想される影響
				国内	海外		
気管支拡張剤 (NA 放出)	エフェドリン	エフェドリン(ナガキ)錠	6.8 時間	~0.4 日	t _{1/2} の 5 倍以上	錠剤で影響でやすいが気管支拡張薬・鼻づまり薬では血中濃度が低いため影響しない	線条体における集積低下
鼻炎(α1 による血管収縮作用)	ブソイドエフェドリン	ディレグラ配合錠	6.39 時間	影響を与えうる薬剤として記載あり	記載なし		
血圧上昇剤	ノルアドレナリン(ノルエピネフリン)	ノルアドレナリン注	1.4 分(t1) 14.3 分(t2)	記載なし	t _{1/2} の 5 倍以上	高用量で影響が出やすい、休薬期間 1 日	線条体における集積増加
ショック(アドレナリン作動薬)	フェニレフリン	ネオシネジコ一ワ注	不明	影響を与えうる薬剤として記載あり	t _{1/2} の 5 倍以上		
抗うつ薬 (SSRI)	★フルボキサミン	ルボックス錠	14.11 時間	5 日	記載なし	視床下部・後頭葉の集積が低下した(動物実験)	背景組織に発現するセロトニントランスポーター(SERT)にも結合するため線条体と背景組織における集積比が上昇(視覚的解釈を大きく妨げるものではない)
	★パロキセチン	パキシル錠	14.98 時間	5 日	記載なし	線条体の集積比が約 10%上昇したが日常診断の視覚評価には影響しない	
	★セルトラリン	ジェイゾロフト錠	23.4 時間	6 日	記載なし	—	
	エスシタロプラム	レクサプロ錠	27.4 時間	8 日	記載なし	—	
抗うつ薬 (SNRI)	デュロキセチン	サインバルタカプセル	10.56 時間	3 日	記載なし	—	
抗うつ薬 (TCA)	イミプラミン	トフラニール錠	9~20 時間	5 日	記載なし	—	
抗うつ薬 (TCA)	クロミプラミン	アナフラニール錠	21 時間 (β-phase)	21 日	記載なし	—	線条体における集積低下
統合失調症治療薬(神経遮断剤)	ピモジト	オーラップ錠	53 時間	28 日	記載なし	—	

AD 治療薬 (NMDA 阻害)	メマンチン	メマリー錠	71.3 時間	5 日	記載なし	—
---------------------	-------	-------	---------	-----	------	---

表 3 明らかな報告はないが読影上注意が必要とされる薬剤

国内ガイドラインに「ドパミン系に作用する可能性がある以下の薬剤についても読影上注意が必要と思われる。」と記載されている。

薬剤区分	薬剤名	製品名	血中半減期 ($t_{1/2}$)	薬剤の主な作用	その他の文献報告
抗精神病剤	リスペリドン	リスパダール錠	3.91 時間 (未変化体)		国内の動物実験で影響が認められていない。6 週間以上の服用により ^{123}I -FP-CIT の集積低下は認められず、ドパミン神経機能への影響はなかった。
抗精神病薬・双極性 障害治療薬・制吐剤	オランザピン	ジプレキサ錠	28.5 時間	ドパミン受容体への拮抗薬である セロトニン・ドパミン アンタゴニスト	6 週間以上の服用により ^{123}I -FP-CIT の集積低下は認められず、ドパミン神経機能への影響はなかった。
抗精神病剤	クエチアピン	セロクエル錠	2.88 時間		—
抗精神病剤	ペロスピロン	ルーラン錠	α : 1~3 時間 β : 5~8 時間		—
抗精神病剤	ブロナンセリン	ロナセン錠	16.2 時間		—
抗精神病薬	アリピプラゾール	エビリファイ錠	61.03 時間	ドパミン受容体部 作動薬であるドパ ミン系安定薬	^{123}I -FP-CIT へ直接影響したという報告はないが、DAT 結合部位を低下させるという報告(動物実験)がある。

表 4 影響が認められない(もしくは休薬不要)と報告されている薬剤

薬剤区分	薬剤名	製品名	検討文献	ガイドライン等		
高血圧、狭心症、不整脈治療剤 (交感神経 β 受容体遮断薬)	メブプロロール	セロケン、ロブレソール	欧州の臨床試験で影響が認められていない	—		
	プロプラノロール	インデラル				
抗けいれん剤	ブリミドン	ブリミドン				
抗精神病薬	ハロペリドール	セレネース、 ネオペリドール、ハロマ ンス	動物実験で影響が認められていない	—		
パーキンソン 病治療薬	抗コリン薬	トリヘキシフェニジル	アーテン、セドリーナ、 パーキネス、パキソナール、 トリヘキシシン	欧州の臨床試験及び国内の動物実験で影響が認められていない	抗 PD 薬(標準的な投薬量での L-ジヒドロキシフェニルアラニン、ドパミン作動薬、モノアミン酸化酵素 B 阻害薬、N-メチル-D-アスパラギン酸受容体遮断薬、アマンタジン、及びカテコール-O-メチルトランスフェラーゼ阻害薬など)は、イオフルパンの DAT への結合を著しくは妨げない。また、障害ラットによる [^{11}C]PE21 を用いた研究では、DAT 集積はドパミン、プラミペキソール、アマンタジンなどの薬剤で影響を受けないことが報告されている。[国内ガイドライン]	
		ビペリデン塩酸塩	アキネトン	報告なし		
	L-ドパ	レボドパ	イーシー・ドパール、ドパゾール、メネシット、マドパー、ドパストン、ネオドパゾール、ネオドパストン	欧州の臨床試験及び国内の動物実験で影響が認められていない。知用事と 20 日以上休薬後で有意差はなかった。		
			プロモクリプチン	パーロデル		国内の動物実験で影響が認められていない
			ペルゴリドメシル酸塩	ペルマックス		欧州医薬品庁の公開資料に、動物実験で影響が認められていない
			ロチゴチン	ニュープロパッチ		報告なし
	NMDA 受容体 遮断薬	アマンタジン	シンメトレル	報告なし		
			シンメトレル	欧州の臨床試験及び国内の動物実験で影響が認められていない		
	MAO-B 阻害剤	セレギリン	エフピーOD 錠	欧州の臨床試験及び国内の動物実験で影響が認められていない		

				られていない 報告なし	体遮断薬、MAO-B 阻害剤、COMT 阻害剤、等)は FAT への結合に著しい影響はないため、休業は不要[SNM ガイドライン]
	COMT 阻害剤	エンタカポン	コムタン	報告なし	
	ノルアドレナリン 前駆病室	ドロキシドパ	ドプス	報告なし	
		ドパミン賦活薬	ゾニサミド	トレリーフ錠	報告なし
鎮痛剤	(オピオイド)		ブプレノルフィン	ノルスパンテープ	フェンタニル以外のオピオイド系薬剤は休業する根拠がなく休業不要
			トラマドール塩酸塩	トラマール	
	アルツハイマー型・ レビー小体型認知症治療薬 (アセチルコリンエステラーゼ阻害薬)	ドネペジル	アリセプト	コリンエステラーゼ阻害剤(製剤名記載なし)の投与による線条体集積低下はわずかであり ¹²³ I-IMP-CIT による AD と DLB の鑑別診断に大きな影響を与えなかった	コリンエステラーゼ阻害剤は有意な影響を及ぼさない [SNM ガイドライン]
安定剤	短時間作用型 ベンゾジアゼピン系		エチゾラム	デパス	報告なし
			クロチアゼパム	リーゼ	報告なし
睡眠導入剤			プロチゾラム	レンドルミン	報告なし
					短時間作用型ベンゾジアゼピン系の鎮痛剤は使用が可能であり、それによる画質への影響もない[SNM ガイドライン]